

広島県教育支援センター（SCHOOL “S”）の活動状況等について

1 趣旨

県内の国公立学校の児童生徒を対象として、対面とオンラインの両面から社会とつながる場を提供するため、令和4年4月1日にSCHOOL “S” を開設し、個々の状況に応じた学びを支援することを通して、社会的な自立に向けて必要な力を育てる取組を進めている。

2 活動状況（令和6年度）

(1) 利用登録者数 209 人（小学生 99 人 中学生 110 人） 前年度比較 ▲61 人

(2) 1 日の平均利用者数（令和7年2月1日～28日） ※小数第2位以下四捨五入 （ ）内は前年度比較

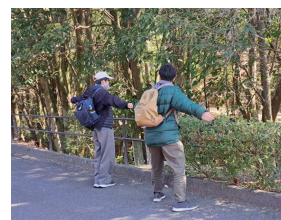
利用方法	小学生	中学生	計
来室利用	16.1 人 (▲2.3)	12.3 人 (▲3.6)	28.3 人 (▲6.1)
オンライン利用	6.3 人 (▲6.8)	16.1 人 ()	22.4 人 (▲6.7)
計	22.4 人 (▲9.1)	28.3 人 (▲3.7)	50.7 人 (▲12.8)

(3) 活動の様子 ～SCHOOL “S” プログラム

参加を希望する児童生徒を対象として、SCHOOL “S” 外での探究活動プログラム（広島大学・憩いの森公園など）を実施した。

ミッション：スタート地点から展望台までの距離を測れ

スタート地点から展望台までの5つのコースの距離をグループで協働し、測り方を工夫しながらミッションの達成に向けて取り組んだ。



<参加した児童生徒の感想（抜粋）>

- ・ ロープで距離を測ったけど、とても時間がかかって困りました。
- ・ 上手くミッションを分割させて協力してクリアすることができたと思う。
- ・ どれだけ時間をかけずに測れるか、どれだけ早く見極められるかなどの判断能力が日常生活に活かせると思いました。

(4) 市町教育支援センター等との連携

県教育委員会の指導主事が SCHOOL “S” の取組で得た知見を活用し、年間を通じて、市町教育支援センター等を訪問し、担当者を支援した。

また、オンラインによる連絡会議や見学会を開催し、取組内容の共有や担当者が互いに学び合う機会を提供することにより、市町教育支援センターにおける不登校等児童生徒への支援の充実を図ってきた。

3 今後の取組（令和7年度）

「安心・安全な場所であり、成長できる場所」として更なる充実を図るため、引き続き、市町教育支援センター等との連携体制の構築及び学びの質の向上に取り組む。